

## 社会科ブックトーク No.2 「日本史で成功した人、失敗した人の違いは？」

第1回のブックトークでは、ハチャメチャな生き方をした歴史上の人物を取り上げましたが、成功が長続きするには破天荒なだけではうまくいきません。成功を支える条件っていったい何でしょうか。今回紹介するのは「日本史に学ぶ一流の気配り」(加来耕三・著)です。

この本のキャッチフレーズは「歴史は人間関係で九割は決まった」です。いくら才能があっても、部下にそっぽを向かれてしまって破滅する織田信長のような人物もいます。私は、「足利尊氏ってそんなに戦いがうまいわけでもないし、家柄だけでなぜ幕府を開くことができたのだろう？」と疑問をもっていました。戦いに負けてもう駄目だと嘆く尊氏ですが、情けない姿も隠さずさらす尊氏に部下たちは、「自分が支えなければ！」と思っていたそうです。それでいて、義理堅く、情に厚い尊氏のもとには、「ここなら自分の才覚を伸ばしやすい、仕えがいがある」とたくさんの大名が集まってきました。率先垂範型とは違うリーダーの姿です。私は「なるほど！」とひざを打ちました。まるで三国志の劉備玄德みたいです。

他にも人の悪口を生涯言わなかった豊臣秀吉、欠点より長所を伸ばす平清盛、自らの才能におぼれ秀吉愛顧の武将たちの支持を得られなかった石田三成など、私たちの日常生活で役に立ちそうなエピソードが満載です。「歴史って、別に役に立たないよね」と思っている人こそ、一度手に取って読んでほしい一冊です。

